

基本方針 2

育む自然

江戸—東京の歴史を伝える
水辺と緑の自然を守り活かす

スケール	キーワード	ページ
地域	12. 緑と水の環	34
	13. 地形の継承	36
街区	14. つながる緑	38
	15. 水辺のにぎわい	40
外構	16. 水のある場所	42
	17. 開かれた緑	44
	18. 季節を感じる草花	46
	19. 見え隠れの庭	48
建築	20. 窓辺の緑	50
	21. 屋上の庭	52

12. 緑と水の環



千代田区の緑

千代田区には、皇居の圧倒的な緑と、それを取り囲む内濠・外濠の水によって緑と水でふちどられた緑と水の環がある。

江戸時代から続くこの財産を守り、育て、引き継いでいくために、緑と水の環の保全はもちろんのこと、皇居の緑を広げていくこと、お濠の水を眺め親しむことを大切にしたい。

方針

緑と水の環に面する建物は、これらが際立つよう最大限の配慮をする。歩行者が緑と水の環に沿って連続的に歩いたり、水を眺めたりできるような場所を整える。皇居に存在する多様な緑をまちなかへ広げていくこと、それによって区全体で生物多様性を確保していくことを意識し、敷地を超える緑の創出を心掛ける。

！ ヒント

皇居周辺の緑・水環境の保全、濠・川を眺められる場所の整備、皇居の緑からの拡がり、風の抜け など

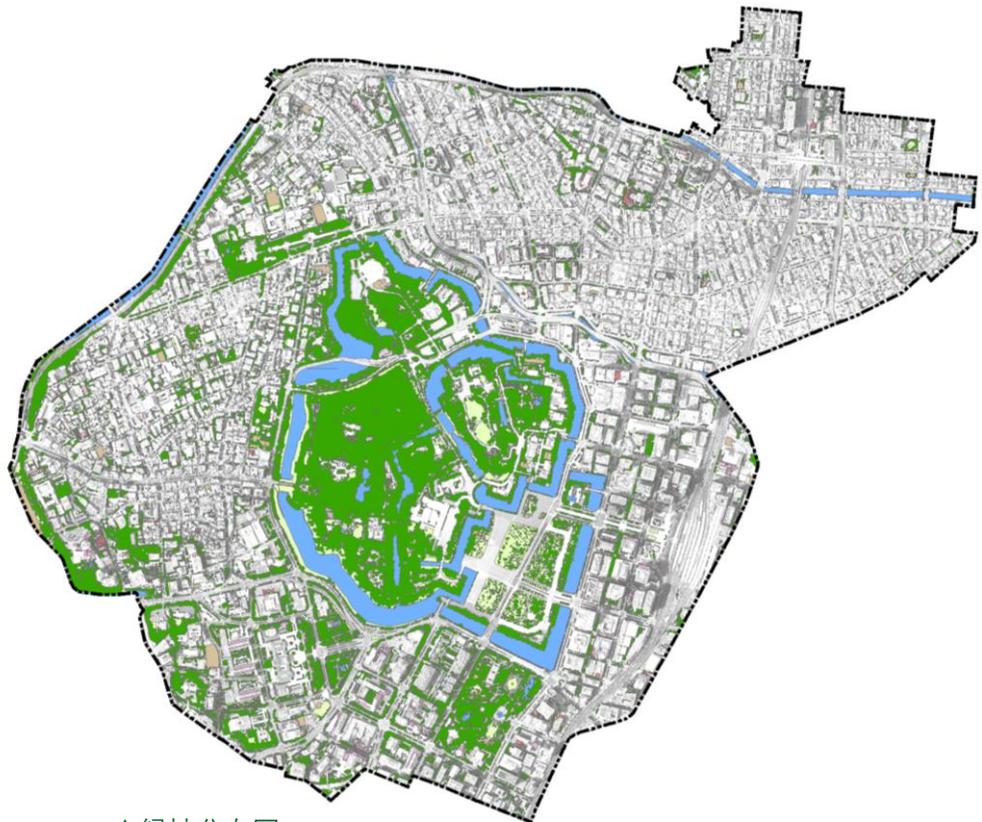
事例



◀千鳥ヶ淵

弁慶濠▶

江戸時代の地形が残る水辺の風景・豊かな緑と周辺のビルの現代的な風景とのコントラストが特徴的である。



▲緑被分布図

13. 地形の継承



東京ガーデンテラス紀尾井町と弁慶濠（紀尾井町）

敷地の持つ土地の特性や地形を守り、活かすことにより、
敷地の美しい場所や眺めの映える場所、
敷地の持つ歴史性を引き出し、伝えることができる。

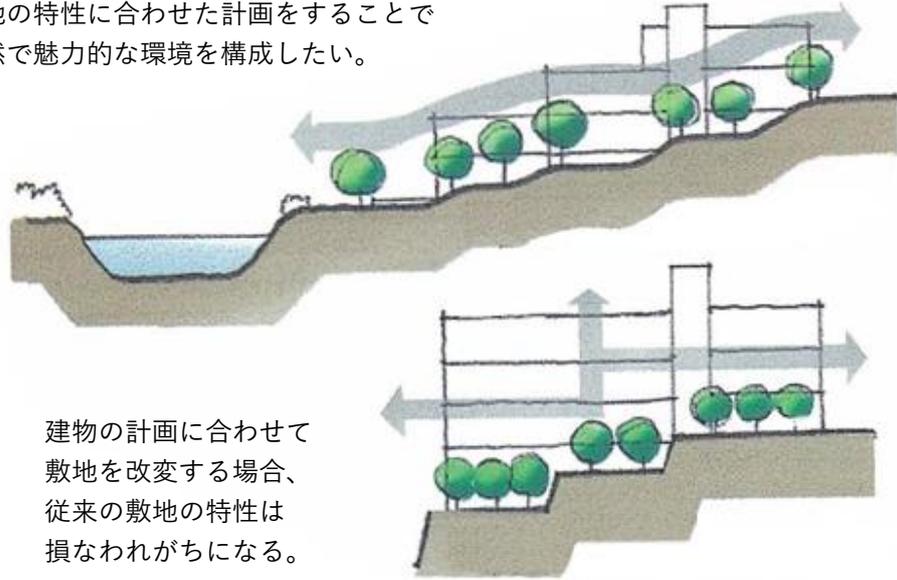
方針

敷地の持つ物理的な特性や地形を無理に変えず、活かすように工夫する。
敷地の美しい場所、眺めの映える場所などには手を付けず、できるだけ共有の場所になるようにする。
埋もれてしまったり、見えにくくなってしまった美しい場所を積極的に修復、復元するよう努めていく。

！ ヒント

地形、高低差を活かした貫通通路、歩道と敷地の境目、建物ボリューム など

敷地の特性に合わせた計画をすることで
自然で魅力的な環境を構成したい。



建物の計画に合わせて
敷地を改変する場合、
従来の敷地の特性は
損なわれがちになる。



◀平河町森タワー
(平河町二丁目)

かつての地形を活かして、立体的な歩行空間を整備する。



◀淡路公園
(神田淡路町二丁目)

傾斜の強い地形に対しては直線的な導線と、緩やかに折り返す導線とを組み合わせる。

14. つながる緑



お茶の水仲通り

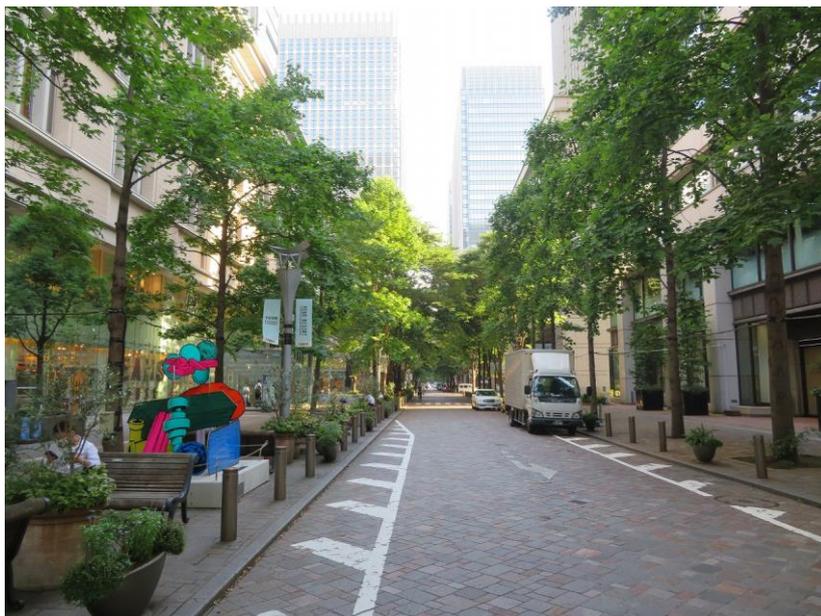
緑はつながり、かたまることでより大きく、
良好な環境を形づくっていく。
新たに緑を植えるとき、隣地の緑や公共空間の緑と
連携させることで環境の豊かさをつなぐことができる。

方針

新たに植える緑は、敷地単位で完結させるのではなく、既存のまとまりのある公共空間などの緑と連続させていく。
また、緑を植える際は十分な土量を用いるよう心掛け、土のつながり、根のつながりも生み出すよう意識する。

！ ヒント

敷地にとどまらない緑、公共空間の緑との連携、二列植栽、樹種の選定・配置 など



▲丸の内仲通り

道路空間も含めた計画的な整備により、街区単位でつながりを創出する。

▶ プラウド神田駿河台
(神田駿河台一丁目)

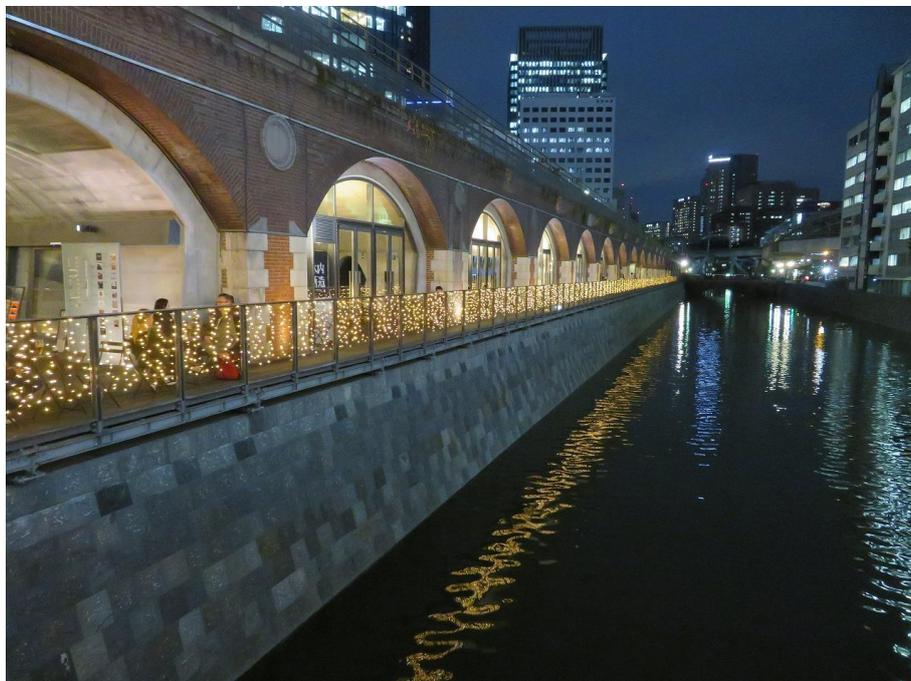
隣接する崖線の緑を活かしながら、樹種と配置をつなげる。



◀日比谷仲通り

歩行者専用道路の緑と敷地内緑地を一体的に整備する。

15. 水辺のにぎわい



マーチエキュート神田万世橋と神田川（神田須田町一丁目）

水辺は人々を引きつけ、あきることのない景観を提供する。
人々が近づくことを拒絶した水辺は、
目の行き届かない場所になりがちである。
緑あふれ、光がふりそそぐ
視界の開けた水辺は絶好の憩いの場となる。

方針

水辺に沿って帯状のオープンスペースを確保し、できるだけ連続性をもたせる。水辺に面する敷地の利用は、水際からの眺めも配慮し、多くの人に開放し、ゆとりと安らぎを与え、活動できる場所づくりに努める。

！ ヒント

水辺の歩行空間の整備、水辺空間の積極活用、開放感のある壁面、橋詰め広場 など



◀ウォーターズ竹芝（港区）

広がる水面に呼応するようにおおらかな芝生広場をつくる。商業施設の一部を利用して立体的な居場所をつくる。



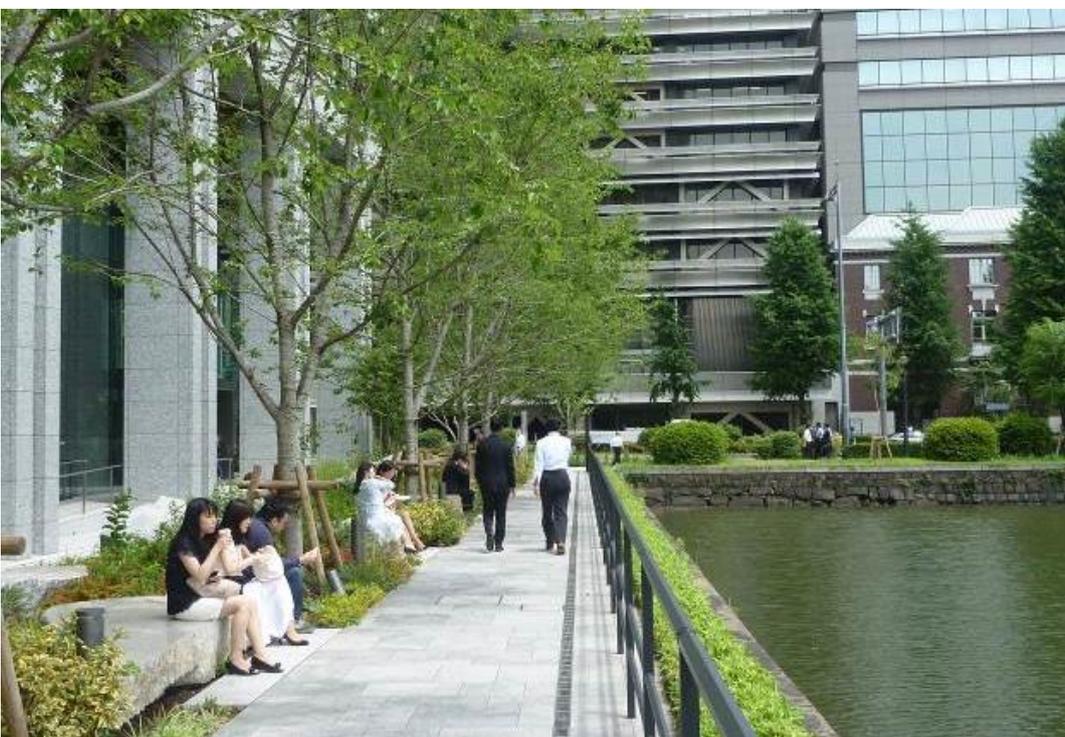
▲9 h（神田三崎町三丁目）

道路からも水辺を感じられるよう1階をガラス張りとし、川に対して開かれた店舗にする。



▲大手町川端緑道

大規模建築物の裏にあたる部分にも小さな商業施設を配置することで人の気配をつくる。



▲日本生命ガーデンタワー（丸の内一丁目）

敷地に面する濠において水を感じられる歩行空間を整備する。

16. 水のある場所



日比谷公園（日比谷公園）

水は人々を引きつけ、癒しを与える。
敷地の中に水を眺めたり、水に触れられたりする場所を設ければ、
人々にゆとりと安らぎを与える場所となる。

方針

敷地内の人にとどまり、たたずむ場所は、水盤や噴水など、水を感じ、触れることのできる場を積極的に設け、安らぎの空間となるよう工夫する。

！ ヒント

水盤、噴水、滝、池、水に触れられる設備 など



◀シークエンス水道橋
(神田三崎町二丁目)

水盤をつくり敷地に接する神田川とつなげる。

錦三七五三公園▶
(神田錦町三丁目)

小川をつくることで清涼感を感じさせる。



▲錦町トラッドスクエア (神田錦町三丁目)

小さな水のある空間に生き物を取り入れることで、風情を感じさせる。

17. 開かれた緑



アーバンネット神田ビル（内神田三丁目）

無機質な空間をうめるように緑を育て開くことで、
建物の間、建物と人々との間がつながり、
街並みに大きなまとまりを生み出すことができる。

方針

建物と建物、建物と街路、擁壁と街路の間や舗装面に、小さな緑を育てる工夫をする。
在来種樹木を採用するなど、生物多様性の確保を目指す。

！ ヒント

接道緑化、擁壁、生垣、壁面緑化、可動プランター、座れる芝生、
ハンギングバスケット、地被類 など



◀ nagatacho GRiD
(平河町二丁目)

壁面位置を後退させ、街路面に潤いを与える豊富な緑地帯を設ける。

竹むら▶
(神田須田町一丁目)

敷地が狭小でも、角地などの立地や建物のスケール、素材の質感にあった緑を施しまちのランドマークをつくる。



◀ 丸の内仲通り

樹木が育つ基盤として十分な土を準備する。プランターなどの可動式の植栽を組み合わせ変化をつける。

18. 季節を感じる草花



読売新聞ビル（大手町一丁目）

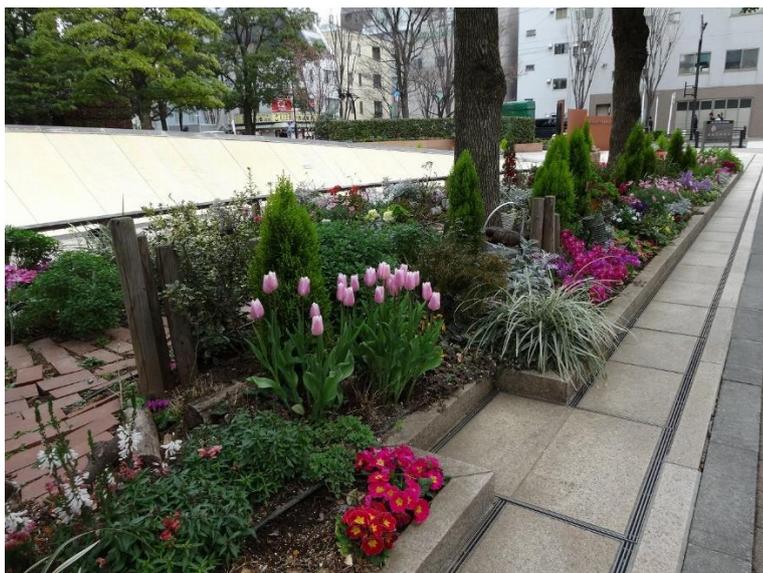
都会の花々は、人の手が入らないと育ちにくい。
道端や、店先などで育てられた花は、
道行く人々に安らぎや季節感を与えてくれるほか、
地域の維持管理意識や日常生活における人々のつながりにも寄与する。

方針

人が座ったり、一息入れるような場所に、手で触れたり、香りをはげらるような花の育成を積極的に行い、環境形成の小さな道具とする。
また育てる花は季節感を感じられるように工夫して選ぶ。

！ ヒント

花壇、花畑、プランター、交差点、階段、入口、店先、
人々の活動の節目となる場所 など



◀神保町三井ビル
(神田神保町一丁目)



▶住友商事美土代ビル
(神田美土代町)

街路に面して花の咲く低木や地被類を採用し、潤いを与えている。



◀Nicolai Bergmann
Flowers & Design
Flagship Store (港区)

商業施設の顔となるエントランスを華やかな花で彩る。

19. 見え隠れの庭



高島邸（神田駿河台四丁目）

千代田区には緑豊かな大小の庭が数多くある。
道行く人がその全部を見ることは不可能だとしても、
庭の一部が垣間見えれば緑豊かな環境を共有することができる。

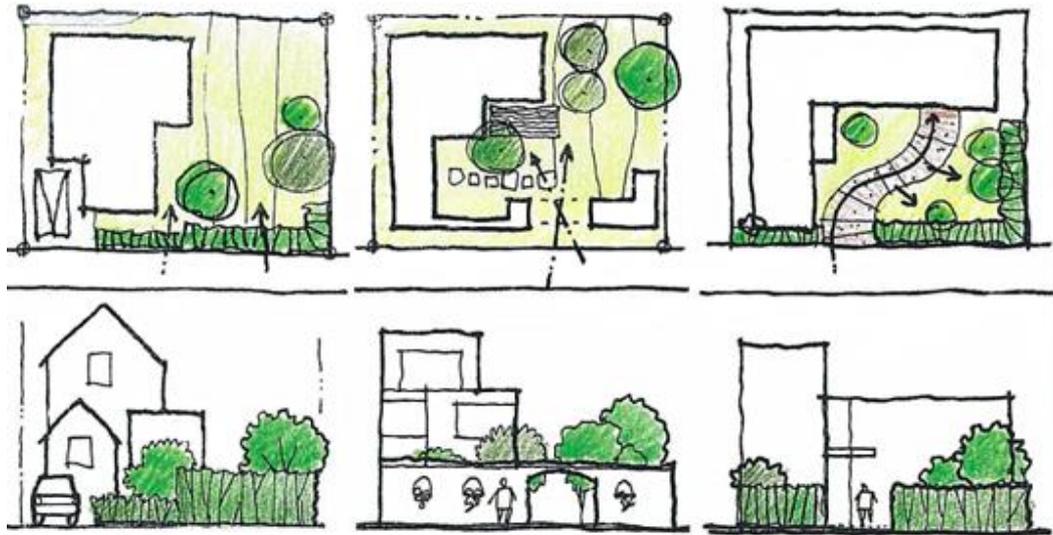
方針

美しい庭は、敷地を取り巻く歩行路から垣間見えるように配慮したい。

！ ヒント

道路側からの視認性、生垣越し、塀越し、塀の開口部 など

事例



塀や壁を設ける場合は完全に閉鎖的なものとせず、
所々で庭の緑や大きな樹などと視覚的に関連付ける。



▲三番町パークテラス桜苑（三番町）

庭の緑が垣間見えるように樹木の枝ぶりと視線が抜ける柵とを組み合わせる。



▲旧山口萬吉邸（九段北一丁目）

垂直方向に広がりのある庭に対して
水平方向に広がる門塀を組み合わせる。



◀丸の内ブリックスクエア
（丸の内二丁目）

大規模敷地にも路地状の貫通空間
をつくり中庭の豊かな緑まで視線を
通す。

20. 窓辺の緑



二番町ガーデン（二番町）

窓辺に緑を添えよう。

窓辺の緑は、室内とまちをつなぐ橋渡しとなってくれる。

緑を通じて部屋とまちが繋がれば、

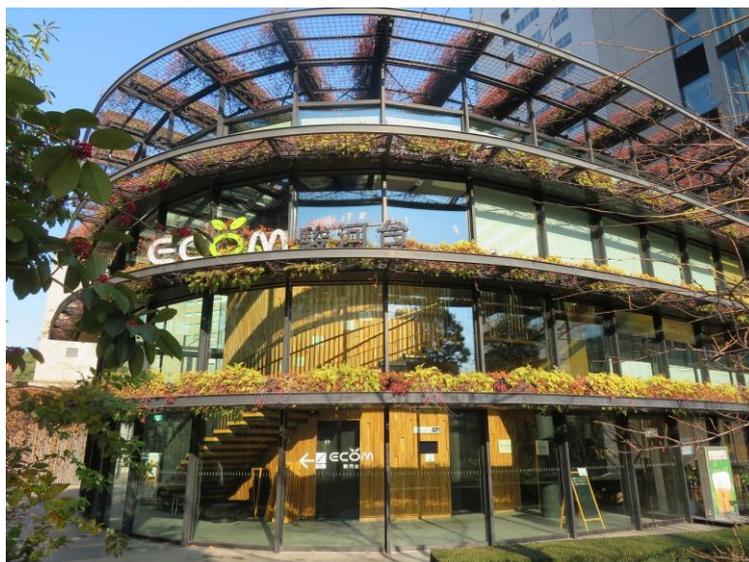
このまちでの暮らしがより豊かになる。

方針

窓辺に緑を設えるための仕掛けをつくり出す。

！ ヒント

プランター、観葉植物、花壇、灌水設備、バルコニー など



◀ ECOM 駿河台
(神田駿河台三丁目)

まちに面したガラスファサードに太陽の熱を遮蔽する緑の庇を組み合わせることで、景観と室内環境とを両立させる。

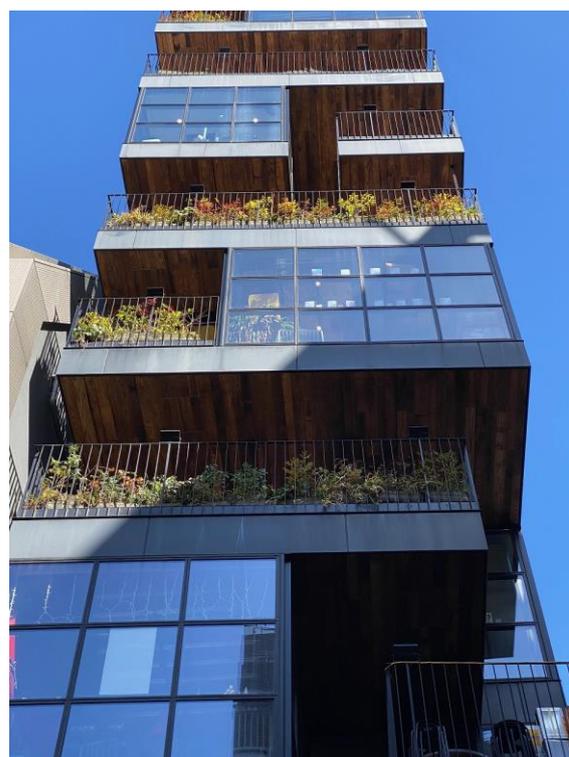


◀ 住友商事錦町ビル(神田錦町一丁目)

歩道のない幅の狭い街路に対しても、外壁を水平に分節し緑を組み合わせて表情をつくる。

LANDPOOL 神田テラス ▶
(神田錦町一丁目)

窓辺の緑を立体的に展開し、一緒に目に入る天井の素材にも配慮する。



21. 屋上の庭



かがやきプラザ（九段南一丁目）

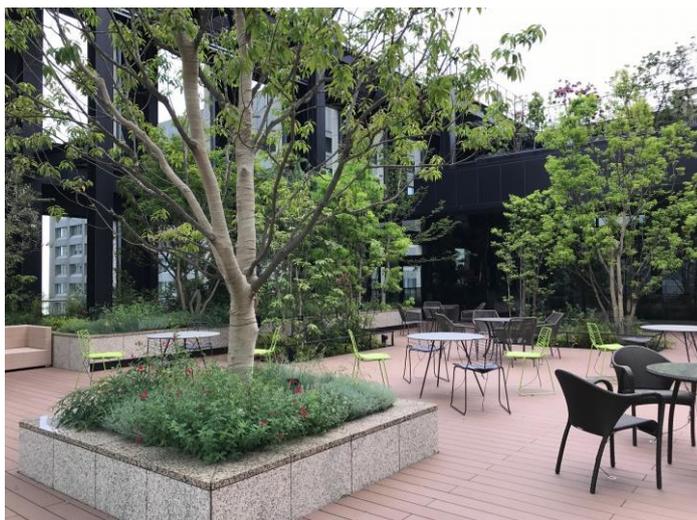
高密度の都市の中では、
個々の敷地でまとまった庭をつくるのはむずかしい。
しかし、建物の屋上をうまく利用すると、
陽光と開けた眺望を楽しめる庭を得ることができる。

方針

敷地内に庭がとれないときは、屋上の一部を利用して、くつろげる庭を確保することも考える。
屋上緑化を積極的に取り組むことで、生態系のつながりをつくり出す。

！ ヒント

屋上庭園、屋上緑化、テラス、生物多様性 など

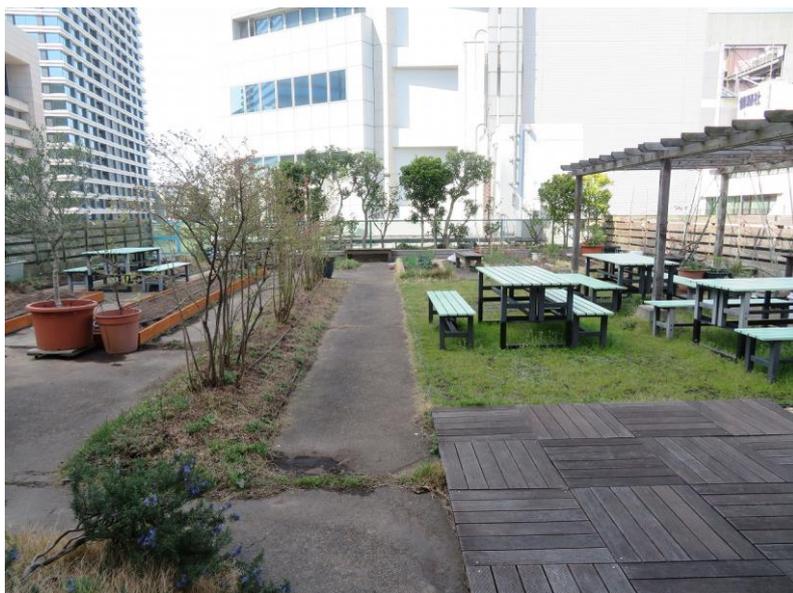


◀日比谷パークフロント
(内幸町二丁目)

超高層建築物の屋上にも風対策を講じながら開放的な庭園をつくる。

東京交通会館▶
(有楽町二丁目)

高層部のセットバックにより形成された基壇部の屋上に積極的な緑化を施すことで、新たな視点場と安らぎの場をつくる。



▲ちよだプラットフォームスクウェア (神田錦町三丁目)

中小規模の建築物の限られた規模の屋上にも、外気に触れることができる庭を積極的につくる。